

県酪だより

K E N R A K U D A Y O R I

2026
4
vol.340

シャインコーストファーム 開牧式



TOPICS

- ・ 令和8年度生産奨励対策事業のご案内について …… ④～⑤
- ・ 第3回後継者支援研修会開催 …………… ⑥

シャインコーストファーム開牧式



根本先生祝辞



宗像前組合長感謝状

令和8年4月15日(水)シャインコーストファーム開牧式が、約60名の関係者を招いて、浪江町でおこなわれました。

当日の牧場は、午前中より海からのヤマセが吹くあいにくの天気でしたが、飼養されている乳牛にとっては気持ちの良い気候だったと思います。

牧場で行われた式典では、紺野社長による挨拶ののち、前衆議院議員元復興大臣 根本 匠様、全国酪農業協同組合連合会代表理事専務 熊谷法夫様、酪王協同乳業株式会社代表取締役社長 佐久間博康様の3名から祝辞を頂き、平成29年の牧場建設構想時より深く関わって頂いた、前代表理事組合長 宗像 実様、そして幾度と建設地が変わるなか何度も牧場の基本設計に携わって頂いた有限会社デージーデザイン代表取締役 宇賀神泰志様に対し、紺野社長より感謝状が贈呈されました。

その後、出来たばかりのシャインコーストファームプロモーションビデオが上映され、タイベックスとオーバーブーツを着用して白装束となり、シャインコースト(株)代表取締役専務 山崎正典様の案内で牧場視察を行いました。

なお、シャインコーストファームの牧場視察は、令和8年度について就職活動生以外の視察・見学等はお断りさせて頂いております。牧場視察・見学につきましては、令和9年度以降の受付となります事ご理解頂きますようお願い致します。

シャインコーストファームはまだスタートしたばかりの牧場です。

しかし、その使命は大きく、震災で除染された浜通りの農地再興、産学官による大学・研究機関との連携、そして酪農家が酪農技術を学びまた酪農を目指す若者の人材育成の場として期待されています。

シャインコーストファームがその名前のおり「光輝き、国内外の関係者と共に、農業酪農を牽引していく」ことをこれから期待しています。



前列 左から山崎専務、紺野社長、根本先生、全酪連熊谷専務、酪王協同乳業佐久間社長、後列 株主関係者

浪江町大規模畜産施設 (シャインコースト・ファーム) 落成式

真新しい牛舎へ乳牛が到着、ロータリー型搾乳ロボットでの初めての搾乳



落成式 テープカット

4月9日(木)に、浪江町棚塩地区に完成した「浪江町大規模畜産施設」の落成式が執り行われ、当日は吉田栄光浪江町長が「町の畜産業の再生に大きく寄与する」とあいさつし、山本幸一郎浪江町議会議員、山本啓介農林水産大臣政務官、山野謙復興庁事務次官、小貫薫福島県農林水産部長など多数の方が出席されました。

浪江町では東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興として、畜産業の再生および耕種農家との連携により堆肥・液肥や飼料作物を相互に供給する「循環型農業」を構築し、被災農地の地力回復による「農業再生」、さらには酪農業の次世代を担う人材育成などを目的として進めてきた『浪江町大規模畜産施設』が、浪江町から施設運営者となるシャインコースト(株)へ引き渡され、「牛とともに働く人を育て、町の未来をともにつくる。地域にとって誇れる場所にしていく」と紺野宏代表取締役社長が新たな決意を語りました。



吉田町長挨拶

早速、翌日から全酪連酪農技術研究所、ミネロファームより順次、乳牛の移動を行いました。待ちに待った乳牛の到着にシャインコースト(株)の職員たちが一生懸命に乳牛を牛舎へ入れる作業に追われ、真新しい牛舎へ牛たちが入ると、緊張した面持ちではあったものの、牛をやさしくなでて、この牛たちと一緒に新しい牧場を作り上げていくといった力強い気持ちが伝わってきました。

これから、県内や北海道から乳牛を導入する計画となっており、徐々に牛たちが増えています。この牧場の役割として、浜通りの酪農復興の新たなシンボルとして、そして日本の酪農業を支える大きな一歩として、一日でも早く牧場の安定経営を目指していきます。



紺野社長挨拶



山本啓介農林水産大臣政務官(中央)

福島県酪農業協同組合

令和8年度生産奨励対策事業のご案内について

組合は、今年度下記生産奨励対策4事業に取り組みます。
事業の詳細は各事業の欄をご確認下さい。

1. 乳房炎ワクチン奨励事業
2. ゲノミック検査事業
3. 醗酵 TMR 飼料利用対策奨励金交付事業

令和8年度の実産奨励対策事業が3月27日理事会で決定されましたので、下記のとおりご案内します。

今年の生産奨励対策は、厳しい酪農情勢が継続している中ではありますが、酪農経営支援対策を優先し、より効果的な事業に絞った奨励対策とし、総額10,400千円強を事業予算化しました。組合員皆様の安定した経営継続と収益確保に繋がるよう、各事業を上手に活用して頂きますことをお願い致します。

各事業に対して不明な点がありましたら組合職員にご質問ご相談願います。

なお、各事業の事業申請案内を別途おこないます。各事業の予算額で未消化が見込まれる事業につきましては、申請・要望の多い事業に年度途中で予算を振り向ける場合がありますのでご承知願います。皆様の経営改善のために、計画した予算額を有効に活用して頂きたいと考えておりますので、ご理解の程お願い致します。

また、組合の基幹事業として、昨年度より「新規就農者・後継者支援事業」を実施しております。次世代を担う新規就農者（事業継承含む）や後継者に対し、継続的な支援を実施するために設けた事業となりますので、利用を検討されている方は、組合職員までお声かけください。

【1】乳房炎ワクチン奨励事業（継続）

目的： 乳房炎は、乳房炎症による乳質低下、食欲減退から死に至る個体損耗や供用年数の低下、泌乳量減少や治療費増加、休薬期間中の出荷制限による経済的損失に加え、搾乳時間延長や経営者への精神的ストレスを与える昔からの大きな問題となっている。

これら問題軽減化のために、近年、国内でも乳房炎ワクチンが一部酪農現場で使用されるようになってきた。本事業では、組合員の乳房炎コントロールの一手段として、乳牛の損耗や搾乳者の精神的ストレスを軽減することを目的とする。

内容： 組合員の敷地内で飼養している乳用牛に対して、組合が指定する乳房炎ワクチン（スタートバック®）を接種した場合に500円/回以内を助成する。

助成対象頭数は、組合が定めた期日までに申込した頭数を元に、申請者に対して定期全頭接種分（最大年4回/頭）を個別通知する。ただし、予算を超過する申請があった場合は、助成単価を調整する場合がある。

牛群検定加入者は、接種料金から国等補助金額を控除した残金に対して500円以内/回を助成する。（予算 6,000千円）

【2】ゲノミック検査事業（継続）

目的： 酪農経営継続と収益確保を考える上では『どの牛にホルスタイン精液を使って後継牛を残し、どの牛に和牛受精卵や和牛精液を人工授精し収益を確保していくか』そして、『自分の乳用牛を客観的に評価しどの様に乳牛を改良していくか』といった『交配計画』が重要になっている。

近年、乳牛の生産能力や体形、健康係数等、様々な遺伝能力が把握できる検査が一部酪農家で利用されている。については、必要な後継牛頭数を確保しながら遺伝能力を把握し交配計画にもとづいた後継牛確保を推進し、組合員の収益確保を図ることを目的とする。

内容： 組合を通じて実施した生後12ヶ月令以内の乳用牛ゲノミック検査（検査機関/家畜改良事業団・野澤組・ファームノート）に対して、検査料金から国等補助金額を控除した補助残5,000円以内/検査を助成する。

また、耳片採取に必要なアプリケーターの購入に対して1/2以内を助成する。ただし、アプリケーター助成は1戸1台のみとする。（予算 4,000千円）

※組合員からの申込みが予算額を超過した場合、本事業を終了することがある。

ただし、無償 SNP 検査事業対象牛は本事業の対象外とする。

【3】発酵TMR飼料利用対策奨励金交付事業（継続）

目的： 組合独自製造飼料である、発酵TMR飼料利用者の計画的利用拡大と健全経営の確立を支援し、併せて組合系統利用の推進を図る。

内容： 本組合が供給した発酵TMR飼料を一定量以上利用した生産者に助成金を交付する。

FDミックス

各四半期合計 90.0 トン以上（月平均 30.0 トン以上）：トン当たり 2,000 円

各四半期合計 67.5 トン以上（月平均 22.5 トン以上）：トン当たり 1,000 円

各四半期合計 45.0 トン以上（月平均 15.0 トン以上）：トン当たり 700 円

各四半期合計 22.5 トン以上（月平均 7.5 トン以上）：トン当たり 300 円



第3回後継者支援研修会

福島県酪農青年研究連盟主催（会長・橋本幸太郎）は令和8年3月6日11時から天瑞（田村市船引町）を会場に第3回後継者支援研究会を開催した。

今回は悪条件下での自給飼料生産をテーマに種苗メーカー3社を招き、それぞれの取り組みについて講演頂きました。初めに主催者を代表し橋本会長から「以前からこのテーマに関心があったので今日は是非各社の取り組みを学んでください」とあいさつの後、カネコ種苗の瀬音さんから共通テーマの「湿害地での種苗管理方法について」講演が始まりました。

湿害地での管理方法について複数の改善策として①堆肥の投入、有機物量増による排水性の改善②中央を高くし傾斜をつくる③サブライソで深耕④畝立て播種が示されました。この中で特に耐湿性の優れた品目を栽培する「播種深度」について説明があり、多湿高温の場合やや浅めに撒き、乾燥地の場合やや深めに撒くことが大事であり、播種深度の使い分けが収穫に結びつくことを強調されました。また、福島県の土壌について話され思いのほか九州のほうがより湿害が深刻であることも話されました。黒ボク土壌がデントコーン栽培に適しており県内では石川、白河、滝根、下郷がこれに該当。これに対し今回のテーマに即した地域の褐色森林土壌は中通り（県北・県中）がこれに属し、保肥力があるがやや粘土質なため排水性が悪く湿害地での種苗管理に該当する。排水体質を作るため水を流すことを考え、傾斜を作りとにかく水はけに努める。または、耐湿性のある品種、晩生の品種に相性の良い元肥にハイ窒素ロング肥料が有利と推奨されました。近年の天候状況がとにかく極端であり天気の良い日を選び集中して作業することが重要と話し、午前の部が終了しました。



午後の講演に移り、サナテックシードの増井氏が講演を再開。デントコーンが主力の会社だけにデントコーンについて近年の異常気象対応策を講じました。近年の高温降雨（福島市）の数字が紹介され、2015～2025の10年間高温が続いており、栽培地域の変化が見られ以前耕作に適した土地がこの10年で変化している旨をスライドで説明されました。先の高温降雨現象について触れましたが、以外にも福島より九州のほうが被害（高温降雨）大きいそうです。トウモロコシは湿害に弱く雨が多いと生育に響くことや、近年の傾向で干ばつと湿害が交互に来ることが問題視されています。隣県である茨城県の収穫期について説明があり、子実の乾燥問題が重要視されています。受粉時期にストレスがかかると実付けが悪くなることが挙げられました。トウモロコシは通常、根はりが強く地下2mほど伸びるので、地盤の良い地域での栽培が理想と話すが、悪条件下での栽培を指導して頂きたいが、やはり悪条件下での栽培は非常に困難であると思います。

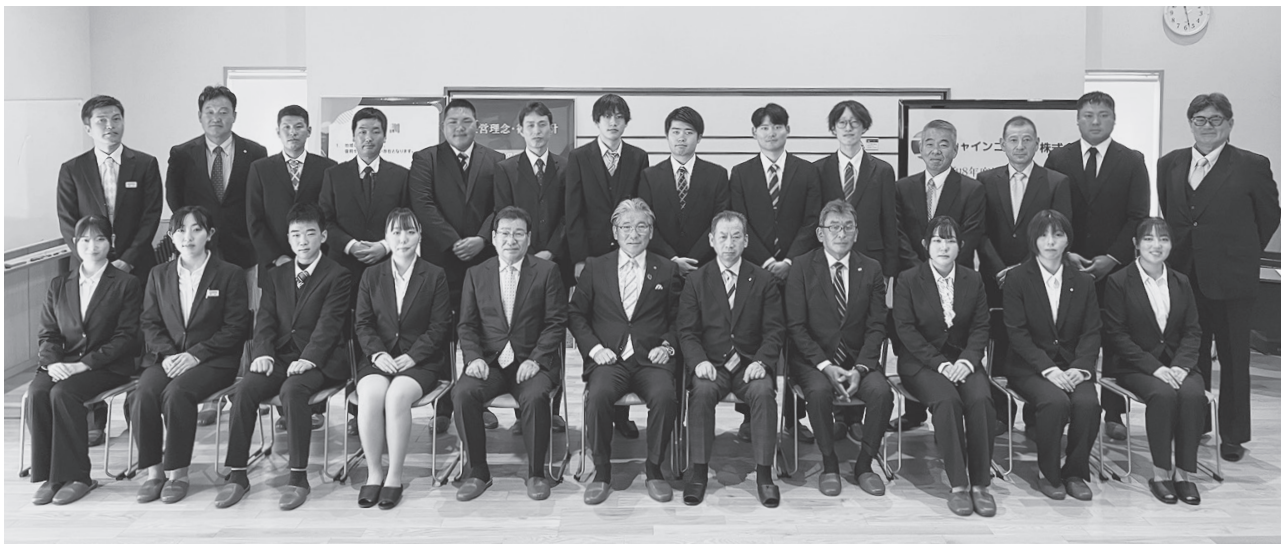
午後2番目の講演は雪印種苗の川目氏が努めました。川目氏の講演は皆さんに資料配布されたのでスライドと手元両方で話について行くことができ、会場の参加者も説明が聞きやすそうでした。「飼料用トウモロコシの栽培技術」と副題を説明され、講演がスタートしました。先のお二人が話した

ように近年高温化がすすみ栽培に負荷がかかっていることが挙げられ、「全圃場・全面積で全部できなくても出来ることはヤレる」事柄として品種の選定（熟期、耐病・耐倒伏性、収量）や播種床、播種時期、水はけを良くし地温をあげる等説明されました。特に今回の悪条件下での対策として、「排水不良への対策」に関し、明渠等がきちんと機能し、水の抜き先が確保されているか。暗渠が整備されている場合、あるいは下層に水が抜ける場合はサブソイラー等の心土破碎が有効。水の抜き先が確保されていることを再確認すること。排水対策➡積算気温の次に重要。生育書には地温の上昇を妨げる防除・追肥作業の妨げに注意。登熟期➡登熟遅れ、主格作業の妨げに注意することが重要とのことです。

次に欠株の原因として播種機の走行速度が速すぎても遅すぎても良くない（最新の播種機でも7km/hが限界一定で走行。播種板式は（4km/h）播種深度が深すぎる（3～5cm）ことが説明されました。播種時は必ず株間をチェックすること。ここでも適正な播種深度が説明されました。理想的なのは深さ3cm程度で種の感覚が3～5cmの等間隔にすることが重要視されます。気温の上昇に伴い虫害も深刻な状況です。最後にまとめとして①畑づくり（排水対策・深度破碎）②播種本数（株間、畝間、播種深度）③堆肥診断④作業スピードの順守⑤除草剤・殺菌剤・殺虫剤の適宜使用⑥作業後の検証が大事な項目ですとまとめられました。

アンケートから雪印種苗さんが実際の現場に対応されている。話と手元資料が見やすく聞きやすかった。中でも三人の講師が共通している問題として「播種深度」に会員らは非常に興味を持ったようです。今後も会員が望むテーマを提供することで参加率が増えるよう対応してまいります。

シャインコースト株式会社令和8年度入社式開催



シャインコースト株式会社は、令和8年3月30日(月)、浪江町幾世橋防災コミュニティセンターにおいて令和8年度入社式を執り行いました。

当日は、新入社員16名（内、県酪農協・全酪連からの出向・転籍7名）が出席し、当社の一員としての第一歩を踏み出しました。式では、代表取締役紺野社長より歓迎の言葉が述べられた他、ご来賓として浪江町長にもご臨席いただき、「耕畜連携を担う重要な存在として大いに期待している」とのご祝辞を賜りました。

第53回東北酪農発表会・総会



第53回東北酪農発表会・総会（東北酪青年女性会議主催）が福島市穴原温泉「吉川屋」を会場に、110名が参加し開催、地元福島から紺野組合長、岩谷常務が来賓出席されました。今回地元福島から発表者はおりませんでした。多くの酪友が一堂に会し終始和やかな中にも厳かに会は進行されました。

まず経営発表が行われ、みやぎの酪農青年部・婦人部から千葉進也さんが「総合力で勝負する～地味を地道にしっかりと～」と題し発表が行われました。千葉さんは30歳まで他業種（建設業界や板前など）でお勤めされ、牛と全く関わりがない生活でしたが、節目の30歳を機に実家へ戻り、就職されました。千葉さんの経営の転機は牧草の知識が乏しかった頃3,000ppmを超える値の硝酸態窒素を含む時価産ロールを乾乳牛に与え中毒症状で死亡させてしまったこと。正しい搾乳方法を知らずグループディスカッションでの的外れな言動で恥ずかしい思いをしたことから、一から現代酪農の基礎知識を学ぶきっかけとなり、自ら学び経験することが何より大事なことだと経営の転機を話され、飼養管理では自動給餌機にたより配合過多なメニューで蹄冠の腫れや脂肪肝が多発したことで配合の改良を行い、牛の健康と作業効率を上げる努力について話されました。

繁殖については人工授精師免許を取得し、自分で種付けできるメリットを活かし年間の後継牛をしっかりと確保しつつ余剰腹を活用し交雑種（F1）や和牛受精イランを移植することで収益増加と計画性の両立を成功させております。また、資金の基本的な考え方では「収益に見合った投資」と「子牛の売却益の最大化」に努めリスクに対応できる経営を実践されております。

将来に向けては地域社会の貢献とともに後継者問題を話され、第三者継承についてご自身なりに資金面からもサポートを惜しまず取り組む考えが話されました。酪農だけに限らず後継者問題は現代社会でも大きな課題であり、常に新しい考え良いものを磨き上げることの大切さが伝わる講演内容でした。

続いて意見・体験発表を岩中青年女性会議の山中涼穂さんが「21歳の私」をテーマに発表が行われました。山中さんは幼い頃から大規模な「酪農」に関心があり、北海道や千葉、さらには大規模な海外酪農に非常に関心があったことを話されました。初めに英語で決意表明から始まり、昨年

5月までカナダで10か月間のワーキングホリデーについて話され、ご自身の努力もありますが海外生活の醍醐味や幼少のころ両親がよく旅行に連れて行ってれたことが自然と見知らぬ土地への関心が大きく根付いたようです。小学3年時に初めてリードマンを行い自然と酪農家の仕事が楽しいと思い、現在まで酪農家の仕事が楽しくて仕方ないようです。

高校卒業後、北海道の美瑛町にある大型牧場「米リッジランドファーム」へ就職し、搾乳だけでなく加工品やショップなど多様な業態を抱える大牧場で経験を積まれたようです。つなぎ飼ひ牛舎で飼養ったのだと思います。同社はたくさんの視察を受け入れ、海外の方もおり、また親戚がアメリカに嫁ぐなど彼女にとって海外は身近なものであり、より多くの希望を持ち海外酪農への希望が膨らんでいったようです。

カナダでの生活は南アフリカ出身の方と共同生活を送り、日常生活ではスマートフォンの翻訳や身振り手振りで感情を表現していたが、周囲の方々が簡単な英語を使い、指示をだしてくれたことで、冒頭山中さんが英語で決意表明したことにつながる英語力を身に着けたものでした。ワーキングホリデーを使い、自分の指標が明確である場合、目的をもった行動でメリハリのある生活に結びつくものだと感じました。自分のいるべき場所を自然な形で表現し、行動している姿はとても21歳には思えません。山中さんは今後、大型免許や人工授精師を取得し家畜運搬や自分の牧場で繁殖業務を目標としております。21歳の彼女のように若い世代が酪農へ興味をもち、経営についても儲かる経営を行えるような今後に期待いたします。

今回、高校生の発表会も新設され、福島県立岩瀬農業高等学校から生物生産科2年の鈴木詩織さんと飛田望亜さんが「繁殖成績と泌乳量の関係」と題し学校で学ばれた成果をパワーポイントにまとめ、生乳生産コストの計算から給与資料の見直しなどについて発表がありました。お二人とも「非農家」出身ですが、生き物に対する考え方、特に興味・関心あることが今後の酪農に明るい兆しがあると感じられる発表となりました。

最後に千葉さん、山中さんが7月の全国大会で多くの酪友に希望と情熱が伝わればと感じた酪農発表会でした。

また、2日目の26日9時から第56次令和7年度通常総会も同会場で行われ第1号議案から第6号議案（役員改選含む）まで無事承認された。今年の全国大会令和8年7月9～10日（沖縄県那覇市）開催分のチケット・宿泊先をなるべく早く抑えるよう事務局から説明がありました。次回の開催は山形県開催となります。



県中やまびこ会手芸教室開催

県中やまびこ会（会長 齋藤麻貴子）では、令和8年2月20日（金）県中・田村方部で、2月27日（金）会津方部で手芸教室を開催し、天然木のさくらあーとの小箱作りをしました。

図解入りの説明書を見ながら作りますが、理解しにくかったり難しい

ところもあり、間違えて作ってる方もいましたが、皆で集まって作ることで、間違いにも気づき教えあったり、協力しあい和気あいあいと楽しく作れ、木の温もりを感じる素敵な箱に仕上がりました。また会津では一人では思いつきもしなかった工夫でアレンジし、更に高級感のある仕上がりになりました。苦戦しながらも想像し手先を動かすことで脳の活性化にも繋がり、有意義な一時を過ごすことが出来ました。

今年度で県中やまびこ会は解散することとなり、最後の事業となりましたが、改めて会員同士の仲間意識の強さ、親睦の深さを感じました。



購買畜産課

令和8年4～6月の牛用飼料価格について

令和8年度第1四半期（令和8年4月～6月）牛用飼料（配合・哺育）につきまして、下記のとおり価格改定を致しますのでご案内申し上げます。

記

改定額（令和8年1～3月期対比）

(1) 牛用配合飼料 トン当たり

1,250円値上げ

(2) 牛用哺育飼料 トン当たり

14,000円値下げ

原料情勢等につきましては、以下のとおりです。

主原料である米国産とうもろこしは、3月10日の米国農務省の需給予想において、2025年産の生産量は170億2,100万ブッシェル（4億3,235万トン、前年比114.3%）、単収は186.5ブッシェル/エーカー、総需要量は164億7,000万ブッシェル（4億1,836万トン）、期末在庫は21億2,700万ブッシェル（5,403万トン）、在庫率は12.91%と発表されました。

シカゴ相場は12月に輸出需要の上方修正を受け上昇しましたが、1月は作付面積・単収増加による生産高見通しの上振れから大幅に下落しました。2月は輸出需要引き上げによる在庫減少を背景に一時上昇する場面もあり足元では強含んで推移しています。

大豆粕は、昨年11月の暴騰時に比較し落ち着いていますが、依然として高値で推移しています。今後は、南米産の生産状況や中国の米国産大豆追加買付け等を注視する必要があります。

糟糠類は、グルテンフィードは飼料需要が安定している一方で、今後主製品の発生期になっていくことから相場は横ばいに推移しています。ふすまは需給が引き締まりつつあるが相場は横ばいに推移しています。

脱脂粉乳は、米国・欧州・オセアニア産の生乳生産量が好調に推移していますが、需要も堅調であり横ばいで推移しています。

海上運賃は、船腹需給の引き締まりに加え、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の高止まりが下支え要因となり、堅調に推移しています。

日米が協調しレートチェックを実施したことから円高が進みましたが、本邦の衆院選で与党が大勝し積極財政が進められる見通しから円安に戻っています。

以上

福島県ホルスタイン改良同志会 通常総会開催

令和8年4月2日(木)、福島県ホルスタイン改良同志会（会長：成田昌弘氏（JA会津よつば））の通常総会が書面にて行われました。令和7年度も、福島県乳牛改良推進協議会の研修会等で教材牛を提供する等、様々な活動への協力をしてきました。また、10月に開催された第16回全日本ホルスタイン共進会北海道大会では、福島県代表牛出品者・協力者としてチーム一丸となり、サポートして参りました。

福島県ホルスタイン改良同志会では、新規会員を募集しております！

共進会が好きな方や乳牛改良に興味がある方等、どんな方でも入会可能です。情報交換ができる研修会や忘新年会等も行っておりますので、興味のある方は、ぜひ事務局までご連絡をお待ちしております。

（事務局：福島県酪 組織振興課 松岡・山木 TEL0243-63-2225）

全酪連の小窓 4月号 ～子牛の哺乳量を見直そう～

新年度に入りました。徐々に春の訪れを感じる今日この頃です。3月のセリ相場から高値での取引が見られ、子牛の発育に力を入れる方もいるのではないのでしょうか。今月は、弊社製品のカーフトップEXブラックを給与内容を基に栄養充足度を踏まえながら説明します。

カーフトップシリーズについて

弊会の取り扱い製品である代用乳製品の「カーフトップEX」と「カーフトップEXブラック」は強化哺育と呼ばれる、子牛が本来持っている発育能力をフルに発揮させる飼料給与体系をもとにつくられた製品です。

ホルスタイン子牛向け 生時体重45kg・200g/L・20℃想定

週齢	粉体 (g)	ニューメイクスター(kg)	エネルギー由来の可能増体 kg/日	タンパク質由来の可能増体 kg/日	目標体重 (kg)
0	初乳				45.0
1	600	0.1	0.38	0.51	50.5
2	800		0.57	0.71	56.0
3	1200	0.2	1.00	1.15	61.6
4	1200	0.3	0.99	1.17	67.1
5	1200	0.4	1.00	1.19	72.7
6	800	0.7	0.67	0.85	78.3
7	600	1.3	0.66	0.84	83.8
8		2.0	0.26	0.47	89.4
9		2.4	0.34	0.61	95.0
10		2.5	0.36	0.63	100.5
11			0.34	0.61	106.1

哺乳量が最大の時では、1kg/日増体する評価となります。さらに骨格造りを目指したい、和牛・F1では増体のチャンスとなりますので、さらに増量することをお勧めします。遅くともこの4週齢までに最大量に持っていくことが尚お勧めです。

離乳時に
スターターを
2kg/日食べれる
ことを目安に

減乳期は代用乳の減少に加えスターターを食べ始める初期にあたり、1日当たりの増体量が大きく落ち込むこととなります。そのため、**スターターや粗飼料での補強が必要**となります。目安として、スターターを1～2割増し、粗飼料を0.5～1.0kg食わせこむことで目標体重に近づけることができます。

スターターのエネルギー効率は、代用乳の41%とされています。哺育期間中で同等の増体を維持するためには、スターターを2.5～3kgを摂取する必要があると推測されます。

溶解倍率と浸透圧について

「カーフトップEX」と「カーフトップEXブラック」は、5倍量のお湯で溶かすことを推奨しています。理由として子牛体内の浸透圧の違いによる下痢等を予防するためです。浸透圧は主に電解質・乳糖・ブドウ糖・尿素濃度によって決まります。イリノイ大学のジム・ドラッグレイ博士によると、代用乳の浸透圧は500mOsm/kg H₂Oまでが許容値とされています。600mOsm/kg以上では鼓張症のリスクが増加する可能性があります。

お湯（EX粉末100g当たり）	浸透圧	固形分率
400ml（×4倍湯溶解）	569mOsm/kg	20.0%
500ml（×5倍湯溶解）	457mOsm/kg	16.6%
600ml（×6倍湯溶解）	377mOsm/kg	14.3%
700ml（×7倍湯溶解）	323mOsm/kg	12.5%
800ml（×8倍湯溶解）	282mOsm/kg	11.1%

← ここまで

もっと発育を
良くしたい！



発育の向上にはどれだけのミルク（粉体として）を入れられるか重要です。

1日当たりの回数を変えることでも、差が出てきます。

濃いめの濃度にすることでも差が出てきますが、哺育期間中での濃度変化は下痢の要因になりますのでご注意ください。

スターターの
食いつきを
強めたい！



スターターの食いつきにはある程度の慣らしは必要ですが、減乳のやり方でも改善することができます。

一発離乳よりも漸減離乳によりストレスなく離乳することが重要です。徐々に哺乳量を減らす、哺乳回数を減らすなど（高濃度・高哺乳量の場合、減乳期間を延ばす必要があります）で自然とスターターを食べることに繋がります。

水を一緒に設置することで、食いつきが上がることも期待できます。

ご不明な点がございましたら、全酪連スタッフや福島県酪職員へご相談ください！

ZENRAKUREN



ZENOAQ コーナー Vol.256

2026 福島県酪・ゼノアック
殺虫剤キャンペーン特別企画

〒963-0196

福島県郡山市安積町笹川字平の上1-1

日本全薬工業(株) 福島営業所

TEL0120-452-464 FAX0120-661-255

ゼノアックコーナーVol.256は、2026年4月～7月までの期間で開催中の殺虫剤キャンペーンと連動した話題を提供したいと思います。

殺虫剤のタイプは？～自分の牧場に合った方法は？

一口で殺虫剤といっても、害虫の駆除という目標は同じでも、そこに向けての工程は様々です。

今回は、殺虫剤の種類と特長をご紹介します。是非自分の牧場に合ったタイプの殺虫剤を選ぶ参考になればありがたいです。

成虫対策

成虫対策の殺虫剤としては、以下のような種類があります。

- ・ **ピレスロイド系** 哺乳類には安全性が高く、昆虫には強力な効果を発揮します。牛舎用殺虫ネットの成分でもあります。
- ・ **有機リン系** 広範囲の害虫に有効。やや遅効性ですが、残効性があります。しかし、毒性が低いです。

【選ぶポイント】

成虫用殺虫剤は、100～400倍の水希釈液を空中に散布することでハエ、刺しバエなどの害虫を駆除する方法です。ハエが発生した後でも対応が可能。散布した直後はハエが少なくなるなどの効果を感じることができ、2～3日もたつとウジから孵化したハエが増えてきます。曇りの日や朝、夕など気象コンディションや適した散布方法を行うことで効果を上げることができます。あとで出てきます幼虫対策と比べるとスケジュール的な散布がない分、作業が忙しい方にはこの方法もおすすです。

『**防虫ネットタイプ**』は、ピレスロイド系殺虫剤を練りこんだネットです。近年注意喚起されている刺しバエ、アブによる感染症伝播対策におすすめ商品です。また、ハエが発生した後でも設置することにより効果が発揮されます。殺虫剤の中では設置してしまえばもっとも手間がかからない方法となります。もっとも手間がかからない方法となります。

『**ベイトタイプ**』最近では一般的な成虫対策ですが、名前の通り**イエバエに自ら薬剤を舐めさせて駆除する**のがベイト剤です。これは薬剤を希釈して壁などに塗布したり、粒状の薬剤をそのまま設置するものでイエバエが脚に付いた薬剤を自ら舐めたり、ベイト剤を直接舐めることで駆除できます。

また、ベイト剤の特長は**簡便に成虫の駆除ができる**点です。しかし、舐めることのない刺しバエやアブには生態的には効果がほとんどありません。

幼虫対策

次は幼虫対策です。幼虫用散布タイプ殺虫剤と昆虫ホルモンを利用した『成長抑制剤』があります。イエバエもサシバエも幼虫の発生場所は農場内になりますので、1年間散布することで結果的に**成虫の密度を下げる**ことができます（ここでは幼虫の発生場所を発生源とさせていただきます）。

なぜ密度を下げるができるかと言いますと、ハエ類の各ステージの割合として成虫に比べて卵、幼虫、蛹が**圧倒的に多い**からです。ですので、発生源対策をすることにより最終的に成虫の密度を減らすことに繋がります。

発生源を対策するので、効果が発揮できると1年間ハエの発生を抑えることが可能です。しかし、プログラムの散布、つまり4月下旬から11月上旬まで10～14日間隔での散布が必要となります。ハエの発生を徹底したい方はこちらの方法を選択いただければと思います。

幼虫対策の重要なポイントとなる場所は堆肥場です。堆肥場以外にも以下の場所が要注意ポイントとなります。

- ・ 除糞後の取りこぼしが溜まる場所
- ・ 除糞頻度の低いペン（除糞間隔が1週間以上）
- ・ 残滓が長期間溜まる（溜めている）場所
- ・ ミルクがこぼれて溜まる場所

今回は県酪殺虫剤キャンペーンと連動したご提案でした。今年のハエ対策はすでに始まっている方もいるかもしれませんが、薬剤の選択の参考になれば幸いです。 〇

<広告のページ>
 発生源対策は環境整備の「はじめの一步」 昆虫成長制御剤 動物用医薬品

サイクラ-テSG・サイクラ-テSG5

■ 有効成分 ピリプロキシフェン …… 0.5g (SG)
 (本品100g中) ピリプロキシフェン …… 5.0g (SG5)

■ 効能・効果 畜・鶏舎内及びその周辺のハエ幼虫(ウジ)の駆除

■ 用法・用量 畜・鶏舎内及び周辺のハエの発生場所に対して使用する。
 直接散布(SGのみ) / 1m²につき20gを発生場所そのまま均一に散布する。
 希釈液散布 / 1m²につき50倍(SG5は500倍) 希釈液1Lを幼虫の発生場所
 所に散布する。堆肥の場合は、よく内部までしみ込むように、100倍(SG5
 は1,000倍)に希釈して散布量を2倍とする。

■ 特長

- 幼虫に対する羽化阻害効果により、害虫を防除します。
- 幼虫期に体内摂取されたピリプロキシフェンは、蛹から成虫へ羽化するとき効果を発揮します。
- 高活性の昆虫成長制御剤です。

サイクラ-テは住化エンバイロメンタルサイエンス(株)の登録商標第2366690号

※25～30℃のイエバエ(ハエ幼虫)のモデル。気温等により変動します。

SG 製品規格 / 1kg・20kg

SG5 製品規格 / 500g・5kg

令和7年度2月別支払乳価表

今月のプール乳価・補給金・集送乳調整金を含めた支払乳価は、132円99銭7厘で前年より2円59銭8厘上回る単価となりました。

春は搾乳量も増加し、生乳の風味差異が起りやすい時期となっております。生乳の風味差異への取り組みとして、日々の飼養管理や受入・出荷時の官能検査等の対応をしておりますが、万が一乳業工場受入時や製品製造後に風味差異が発生しますと受入不可や製品回収、学校給食への提供停止など大きな事故につながりますので、今一度、乳牛の体調管理や牛舎の衛生管理について周知徹底いただきますようお願い致します。

- 東北全体プール乳代金 4,193,843千円 単価131.354円
- 内 福島県分プール乳代金① 411,640千円 単価131.354円
- プール対象外乳代金② 148,176千円
- (学乳向け・買取向け乳代金)

合計乳代金①+② 559,816千円 単価135.396円

項目	令和8年2月	前年同月	増減	前々年同月
プール乳価	131円258	128円935	2円323	129円031
補給金単価	1円338	1円126	0円212	1円151
集送乳調整金単価	0円401	0円338	0円063	0円351
合計	132円997	130円399	2円598	130円533

(注)上記合計は、脂肪率3.5%・無脂固形率8.3%の補給金込みの乳価。

(東北全体2月)

用途別	販売乳量(ト)	日量(ト)	前年比(%)	シェア(%)	前年度シェア
飲用向け	21,568	770.0	91.6	63.2	66.0
加工向け	4,541	162.0	114.1	13.3	11.1
学校給食向け	2,195	78.0	95.8	6.4	6.4
醗酵乳向け	5,273	188.0	98.1	15.5	15.0
生クリーム向け	430	15.0	104.0	1.3	1.2
チーズ向け	116	4.0	97.4	0.3	0.3
合計	34,123	1,217.0	95.5	100.0	100.0

備考 1) 買取乳量を除く

団体別受託乳量の状況

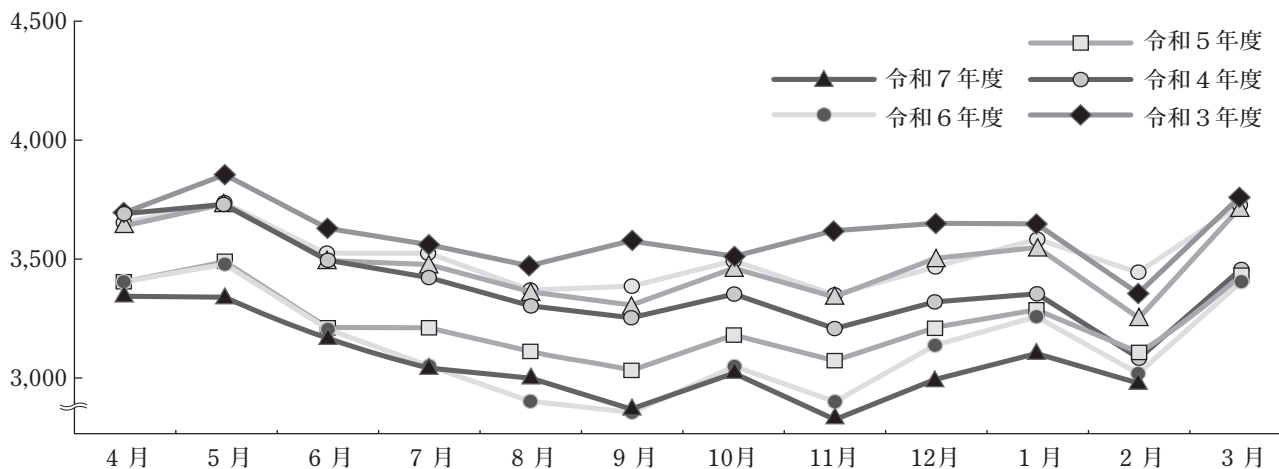
北海道：99.2%、都府県：98.6%

団体名	2月分		
	受託乳量(ト)	日量(ト)	前年比(%)
県酪協	2,920	104.3	96.2
全農福島県本部	1,216	43.4	95.2
合計	4,136	147.7	95.9
東北生乳販連	34,123	1,218.7	95.5
全国	534,599	19,092.8	99.0

月別受託乳量 県酪協 (トン)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	3,693	3,859	3,629	3,599	3,564	3,486	3,578	3,515	3,619	3,652	3,353	3,760	43,307
令和4年度	3,691	3,733	3,494	3,434	3,305	3,255	3,354	3,210	3,324	3,355	3,088	3,456	40,699
令和5年度	3,407	3,492	3,217	3,217	3,117	3,037	3,185	3,070	3,235	3,298	3,155	3,454	38,884
令和6年度	3,405	3,480	3,206	3,058	2,981	2,897	3,078	2,990	3,141	3,266	3,034	3,416	37,952
令和7年度	3,359	3,444	3,181	3,046	3,001	2,916	3,033	2,880	2,991	3,110	2,920		
前年比%	98.6	99.0	99.2	99.6	100.7	100.7	98.5	96.3	95.2	95.2	96.2		

単位・トン



令和7年度受託乳量の状況

令和8年2月の受託乳量は、県全体で前年比96.0%の実績でありました。

団体別の受託乳量は、本組合が2,920ト、前年比96.2% (対前年同月114ト減)、全農県本部は1,216トの対前年比

95.3% (対前年同月61ト減) の実績でありました。東北生乳販連の受託販売実績については、前年比95.5%となりました。

なお、全国の実績は対前年比99.0%となりました。

令和7年度用途別販売乳量の状況（東北全体）

東北全体の用途向け販売数量は、前年比で加工向けが114.1%、生クリーム向けが104.0%と上回り、飲用向けが91.6%、学校給食向けが95.8%、醗酵乳向けが98.1%、チーズ向けが97.4%と下回って推移しました。引き続き、福島県産牛乳・乳製品の消費拡大にご協力をお願い致します。

今年度に入ってから生乳廃棄事故発生件数(R8.2.28時点)で集乳車廃棄事故が5件(5月2件、7月2件、12月1件)となっております。また、バルククーラー廃棄事故が4件(5月1件、7月2件、8月1件)となっております。事故原因として、スイッチ入れ忘れ、血乳混入等が挙げられます。皆様に再度確認して頂きたいことは、生乳生産管理チェックシート

の記帳と確認の徹底、乳房炎・乾乳軟膏治療牛のマーキング・隔離の徹底による抗生物質誤混入の防止、洗浄水混入防止、牛舎退出時にバルククーラーの乳温再確認・スイッチ入れ忘れが無い確認、ストリップカップを使って前搾りで血乳・乳汁ブツの確認、洗浄時にバルク排乳コックやミルクロー等搾乳部品に乳石付着が無い確認、ご協力の程宜しくお願い致します。

なお、4月から稼働開始した今月の酪王協同乳業(本宮工場)の生乳使用量は日量平均102.5ト(前年比-)で、県全体生産量の69.4%の処理量となりました。

1. 年次別・月別支払乳価一覧（補給金・集送乳調整金を含む）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和7年度	128.424	128.905	132.067	131.787	133.331	136.391	135.915	134.375	131.883	132.853	132.997		
令和6年度	128.759	130.057	132.319	131.084	130.136	133.294	132.236	132.474	128.774	129.667	130.399	127.569	130.564
令和5年度	120.673	121.861	122.643	121.705	129.935	133.579	132.503	131.554	128.815	130.032	130.533	127.295	127.594
令和4年度	109.973	110.973	112.420	111.282	110.437	112.872	112.484	120.128	117.186	118.965	119.149	116.514	114.365
令和3年度	110.502	111.609	113.060	111.724	110.197	112.507	112.537	112.319	109.640	110.594	110.503	109.010	111.184

乳牛頭数調査集計表（公共機関を含む）

令和8年2月28日現在

地区	酪農家戸数			乳牛頭数									
	戸数	前年度戸数	前年比	育成	初妊	経産牛				合計	前年度頭数	前年比	1戸当り頭数
						乾乳妊娠	妊娠搾乳	空胎搾乳	小計				
県北	戸 18	戸 22	% 81.8	頭 483	頭 107	頭 106	頭 422	頭 643	頭 1,171	頭 1,761	頭 1,787	% 98.5	頭 97.8
県中	40	43	93.0	280	78	140	292	615	1,047	1,405	1,452	96.8	35.1
浜	7	6	116.7	105	44	17	57	123	197	346	331	104.5	49.4
県南	27	29	93.1	498	196	165	449	1,043	1,657	2,351	2,454	95.8	87.1
合計	92	100	92.0	1,366	425	428	1,220	2,424	4,072	5,863	6,024	97.3	63.7

地区	月別分娩予定頭数							販売乳量					
	令和8年3月	令和8年4月	令和8年5月	令和8年6月	令和8年7月	令和8年8月	令和8年9月	生乳出荷戸数	地域別販売乳量		1日1頭当り乳量		
	1日当り	1日1戸当り	搾乳牛	経産牛									
県北	頭 68	頭 94	頭 75	頭 67	頭 108	頭 102	頭 121	戸 18	kg 31,554	kg 1,753	kg 29.6	kg 26.9	
県中	81	71	44	48	72	76	118	39	23,947	614	26.4	22.9	
浜	11	12	9	21	22	22	21	6	5,436	906	30.2	27.6	
県南	126	94	98	118	123	121	130	27	43,429	1,608	29.1	26.2	
合計	286	271	226	254	325	321	390	90	104,366	1,160	28.6	25.6	

第365回 県酪協乳牛市場成績

令和8年3月12日開催

購買者数 30名 (うち県外13名)

畜種	雌雄	成立数 (成立率)	最高価格 最低価格	平均価格 (前回比)	平均体重 (前回比)	平均単価 (前回比)
ET和牛	メス	20 (100)	553,000 210,000	493,900 (152)	94 (103)	5,243 (147)
	雄	57 (100)	685,000 288,000	602,877 (154)	105 (95)	5,744 (163)
乳牛	メス	2 (100)	48,000 37,000	42,500 (230)	74 (96)	574 (239)
	雄	32 (100)	175,000 18,000	138,906 (135)	74 (110)	1,872 (121)
交雑牛	メス	64 (100)	247,000 44,000	175,750 (115)	73 (101)	2,395 (112)
	雄	69 (100)	250,000 50,000	197,841 (124)	78 (103)	2,527 (121)
経産牛		2 (100)	564,000 497,000	530,500 (-)		
初妊牛		9 (100)	824,000 652,000	733,000 (131)		
搾乳用雌子牛		14 (100)	292,000 158,000	223,071 (92)		

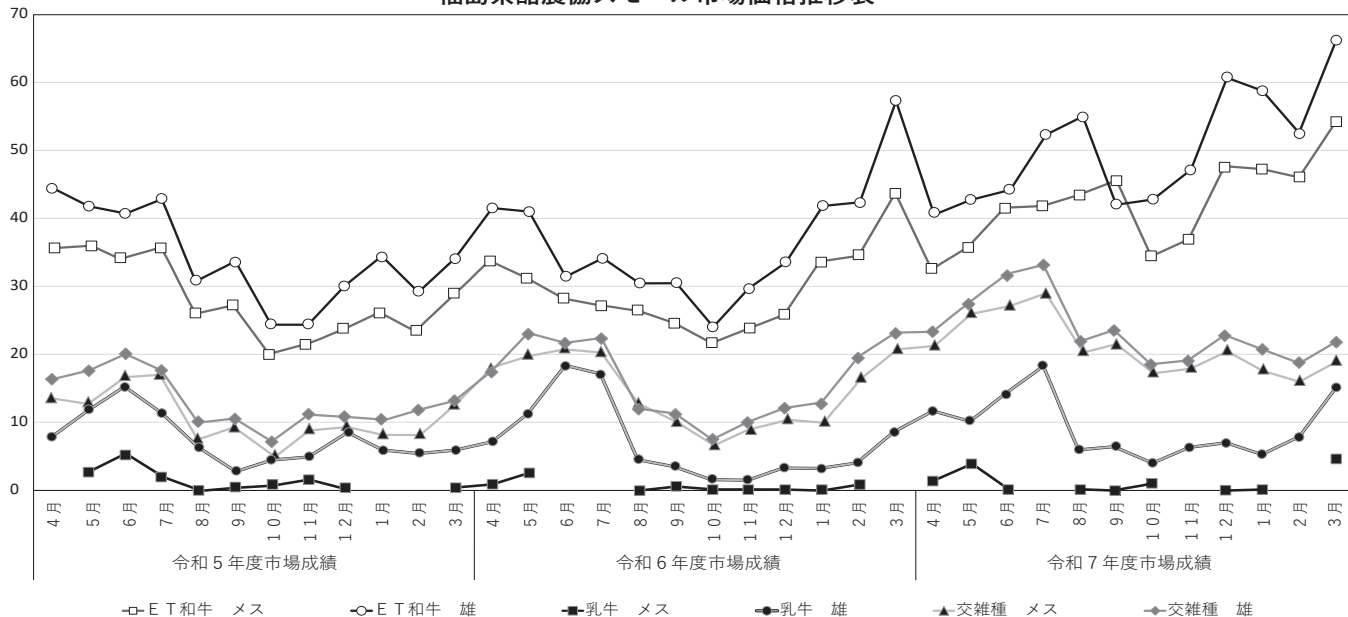
価格：円 (落札価格) 率・比：% 体重：kg
(0は0.1~0.9万円、1は1.0~1.9万円、以下同様。尚、落札価格です。)

価格帯別分布表

畜種	雌雄	価格帯 (万円)																											
		45<	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69			
ET和牛	メス	2			1	3	8	1	1	2	1	1																	
	雄	3			1	1				1		2	1	2	2	2	8	7	8	3	4	3	5	3	1				
乳牛	メス	0<	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24			
	雄		1		1				1		1		1	1	4	3	1	2	10	6									
交雑牛	メス	<8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
	雄	3		3	1		2	4	9	2	7	5	4	11	8	2	1	2											
経産牛	メス	<40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64			
	雄										1							1											
初妊牛	メス	<64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88			
	雄		1			1		1		1	1	1	1				1			1									
搾乳用雌子牛	メス	<8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
	雄								1	1	1				2	2	2	1		1	1			2					

単位：万円

福島県酪農協スモール市場価格推移表



組 合 の 動 き 3 月

3月2日	辞令交付式	3月17日	JAグループ農畜産物損賠償協議会総会
3月3日	全酪連理事会・監事会	3月19日	全酪連ブロック別会長・組合長会議
3月3日	経営検討会	3月23日	県畜産振興協会理事会
3月4日	東北大学5者連携協定式	3月23日	県生乳委託者委員会幹事会
3月4日	酪政連通常総会	3月23日	東北の酪農を考える会
3月5日	東北生乳販連理事会	3月24日	県酪女性部やまびこ会決算役員会
3月6日	酪青連後継者支援研修会	3月24日	東北生乳販連理事会・臨時総会
3月6日	津島支部視察研修会	3月25日	県生乳委託者委員会
3月11日	シャインコースト(株) 臨時株主総会・取締役会	3月25～ 26日	東北酪青女 東北酪農発表大会
3月12日	乳牛せり市場	3月26日	(一社) 全国酪農協会理事会
3月12日	県獣医師会理事会	3月27日	管理生産委員会
3月12日	酪王協同乳業(株)取締役会	3月27日	第10回理事会
3月13日	県中支部研修会	3月27日	(株)らくのう乳販取締役会
3月13日	原発事故損害賠償酪農団体協議会 幹事会・総会	3月27日	経営検討会
3月16～ 17日	県酪女性部やまびこ会役員旅行	3月30日	シャインコースト(株)入社式
		3月31日	酪青連決算役員会・酪農研究部決算役員会
		3月31日	辞令交付式

理 事 会

第10回 令和8年3月27日

議 案

- 第1号議案 令和8年度事業方針並びに計画立案骨子について
- 第2号議案 令和8年度生産奨励対策事業実施計画（案）について
- 第3号議案 令和8年度乳価構成テーブルと細菌数・体細胞数の乳質格差並びに自主規制実施要領について
- 第4号議案 令和8年度余裕金預入先金融機関並びに運用方法について
- 第5号議案 令和8年度一組合員に対する貸付金並びに貸付金利率最高限度について
- 第6号議案 特別積立金の取り崩しについて
- 第7号議案 令和8年度事業資金の借入並びに最高限度額決定について
- 第8号議案 令和8年度乳牛導入に係る貸付金額条件緩和について
- 第9号議案 役員定数の変更と定款の一部変更について
- 第10号議案 定款附属書役員選任規程の一部変更について
- 第11号議案 規約附属書役員候補者推薦会議運営規程の一部変更について
- 第12号議案 嘱託及び臨時職員就業規則・定年退職者再雇用規程・進路選択制度規程に関する規則・規程の一部改正について
- 第13号議案 後継者支援事業対象者への支援金支払いについて（追加議案）

報告事項

- (1) 令和8年度職員定期異動等について
- (2) 今後の日程について
- (3) 総会までの日程について

令和8年度定期異動・昇進・昇格・昇級・退職者

◆退職者（令和8年3月31日付）

氏名	事由	所属
佐藤 幸光	再雇用期間満了	復興牧場設立準備室
長瀬 真一	再雇用期間満了	田村事務所
堀井 好	転籍	復興牧場設立準備室

◆異動・兼解（昇進・昇格他含む）（令和8年4月1日付）

職位	氏名	新任	旧任
副審査役	柳 沼 鉄 治	経営管理部付 シャインコースト(株)出向部長	復興牧場設立準備室室長
副考査役	佐々木 光輝	生産部販売課課長	生産部販売課課長(次長待遇)
副考査役	小島 宏文	生産部指導診療所浜事務所 課長補佐	生産部指導診療課兼 指導診療所係長
調査役	金澤 章博	生産部生産指導課課長補佐	生産部購買畜産課課長補佐
副調査役	渡辺 弘美	浜事務所主任	生産部購買畜産課兼 浜事務所主任
副調査役	佐藤 偵 土 子	経営管理部経営管理課兼 監査課主任	経営管理部組織振興課主任
調査役	甲 斐 響	経営管理部付 シャインコースト(株)出向主任	復興牧場設立準備室主任
副調査役	目黒 裕 佳	経営管理部付 シャインコースト(株)出向主任	復興牧場設立準備室主任
副調査役	吉田 満雄	生産部指導診療所浜事務所主任	生産部指導診療所
副審査役	横山 良征	経営管理部付 シャインコースト(株)出向	復興牧場設立準備室
一般職位	増子 桂子	経営管理部組織振興課	経営管理部経営管理課
一般職位	橋本 夏来	経営管理部付 シャインコースト(株)出向	復興牧場設立準備室
一般職位	深谷 舞	経営管理部付 シャインコースト(株)出向	復興牧場設立準備室
嘱託	遠藤 智子	県南事務所兼田村事務所	県南事務所

◆昇進（昇格他含む）

職位	氏名	新任	旧任
副調査役	松本 直美	生産部指導診療課兼販売課主任	生産部指導診療課兼販売課

◆昇格・昇級

職位	氏名	新任	旧任
副考査役	角田 淳也	経営管理部経営管理課課長兼 組織振興課課長兼監査課課長	経営管理部経営管理課課長兼 組織振興課課長兼監査課課長 (調査役)

◆新採用

職位	氏名	新任
一般職位	菊池 忠裕	経営管理部組織振興課

新入職員
のご紹介

経営管理部 組織振興課

きくち ただひろ
●菊池 忠裕

令和8年4月1日より経営管理部組織振興課に配属になりました。主に補助事業を担当いたします。少しでも組合員の皆様のお力になれるよう頑張っておりますのでよろしくお願いたします。

福島県牛乳普及協会

ミルクに関する国内外の最新研究をレポートします

アカデミックリサーチアップデートダイジェスト

一般社団法人Jミルク 2026.03



全脂肪乳製品が心血管の健康を維持！

心筋梗塞などに関わる心血管の健康のために、しばしば低脂肪や無脂肪の乳製品が推奨されることがありますが、その根拠とされるのは中高年を対象とした研究がほとんどで、若い頃からの継続した摂取に対する研究結果は得られていませんでした。

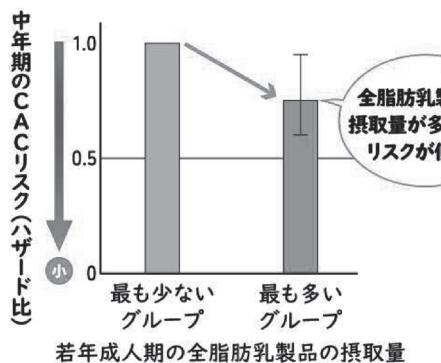
そのような中、乳製品摂取と心血管疾患の関係について、主に20代の若年期から25年間にわたる追跡調査を行った研究結果が発表されました。

アメリカで行われたこの調査では、3千人あまりを対象に、各種乳製品の摂取量と、心筋梗塞や狭心症の原因となる「冠動脈石灰化(動脈硬化)」の有無の関係が調べられました。その結果、全脂肪乳製品の摂取量が多いグループほど「冠動脈石灰化あり」とされる人が少なく、摂取量が最も多いグループは、最も少ないグループと比べて、冠動脈石灰化のリスクが24%低くなりました。一方で、低脂肪や無脂肪の乳製品では、摂取量と冠動脈石灰化のリスクに関係は見られませんでした。

乳製品と無/低脂肪乳製品で違いが出た理由として、乳脂肪には心血管の健康に役立つ短鎖/中鎖脂肪酸が多く含まれることや、乳脂肪分を除去する過程で他の有用な成分まで失われてしまう可能性などが考えられています。

乳脂肪については、近年、新たな機能性や健康効果が次々と明らかになっており、アメリカの最新の食事ガイドラインでも健康的な脂質の供給源として全脂肪乳製品が挙げられています。私たちも、乳脂肪に対する見方を新たにし、風味豊かで健康にもよい全脂肪乳製品をもっと楽しみたいですね。

全脂肪乳製品の摂取量と冠動脈石灰化(CAC)リスク



※全脂肪乳製品の摂取量によって全体を4つのグループに分け、摂取量が最も少ないグループを参照値(1.0)とした場合の相対的な比較です。

(縦線で示したエラーバーは95%信頼区間)

低脂肪より

全脂肪で

心血管疾患リスクを低減!



1)を参考に作成

さらに詳しくお知りになりたい方はこちらへ
ACADEMIC RESEARCH
Update Vol.62



1) Cannon EJ, Jacobs Jr DR, Steffen LM, Pletcher MJ, Shikany JM, Greenland P, Martignoni FV, Schreiner PJ, Miedema M. Dairy Intake and Coronary Artery Calcification: The Coronary Artery Risk Development in Young Adults (CARDIA) Prospective Cohort Study. J Nutr 2025; 155(12): 4523-4529.

浪江町大規模畜産施設 (シャインコースト・ファーム) 集乳開始



牛の移動が完了した夕方から初めて、ロータリー型搾乳ロボットにて、搾乳が行われました。なかなか、機械に入るまでが大変で、職員たちも長い時間、作業している中で、徐々に牛たちが機械になれていくことを信じて頑張っている姿も印象的でした。搾乳された生乳は11日に初出荷を迎えました。

『特派員 報告』 大募集

毎月、県内各地の情報を皆さまから提供いただき、共有していきたいと思えます。ちょっとした出来事、地域にあるお店の紹介などなど情報提供をお願いします。

連絡先

E-mail : info@fukuraku.or.jp
F A X : 0243-33-1103



『ほっとMilk』 投稿募集について

1. テーマは自由 (ほっと(^o^))する話題がいいですね)
 - ◎文章だけでも結構です。
 - ◎写真があると最高です。
2. 受付 (常時受け付けしています)
 - メール・FAX・事務所経由・直接持参、何でもOKです。
 - E-mail : info@fukuraku.or.jp**
 - F A X : 0243-33-1103**

発行者 福島県酪農業協同組合 発行責任者 常務理事 岩谷 宏

〒969-1103 福島県本宮市仁井田字一里壇17番地 TEL 0243-33-1101 FAX 0243-33-1103 URL <http://www.milk.fukushima.jp>